

平成 28 年度 第 1 回秋葉区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 28 年 8 月 31 日 (水) 午後 1 時 30 分から午後 2 時 50 分まで
会 場	秋葉区役所 6 階 601・602 会議室
出席者	秋葉区自治協議会委員 23 名 教育委員: 沢野教育委員、佐藤教育委員 事務局: 教育長、教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐 新津地区公民館長、新津図書館長、秋葉区教育支援センター所長 他 3 名 秋葉区役所: 区長、副区長、地域課長 傍聴者: 0 名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶 (沢野教育委員、佐藤教育委員) 3 平成 28 年度教育委員会の施策について (教育長) 4 意見交換 (司会 秋葉区教育支援センター所長)
自治協委員	秋葉区自治協議会の今年度提案事業「秋葉山プレーパーク事業」。プレーパークとは、木に登ったり、火を使ったり、穴を掘ったり、昔の子どもの遊びができる公園のこと。関東中心にたくさんできているが、県内にまだないということで、新津青年会議所が秋葉山の秋葉公園の一角に昨年 1 年かけて小屋やフィールドを整備した。 一方、区自治協の教育にかかわる部会では、今年 2 月、尾木直樹先生に「子どもが地域で育つには」をテーマに講演していただき、その中で、子どもたち自らがかわる公園づくりの話があった。 そこで、区自治協が協働の要となり、青年会議所、地元町内会、新津第一小学校、秋葉区をはじめ、多様な団体、年齢層がかかわり本格的な秋葉山プレーパークづくりに協働事業として取り組むことになった。 明日と明後日、新津第一小学校 6 年生と「プレーパークにこんなものがあつたらいいな」というワークショップを開く。子どもたちの意見をプレーパークに取り入れたい。 確かにプレーパークはリスクを伴う遊び場で、運営も難しいが、これからの人生、子どもも大人も多少のリスクを抱えながら生きていかなければと思っており、リスクを抱えながらもチャレンジして得られる喜び、充実感を遊びというところで子どもたちには感じてほしい。
教育委員	この事業に取り組んでいる秋葉区の皆さんに感謝申し上げたい。これはとても良い事例と思った。プレーパークという取り組み自体も素晴らしいが、運営自体、自治協議会だけではなく、青年会議所や地元 NPO 団体などが入り、協働の輪をつくりあげて活動している。こういう連携の手法や取り組み自体は、他の区の参考になるのではないかと思った。
自治協委員	小合地域では、学校と地域で連携して「愛(あい)さつ運動」に取り組んでいる。「あい」の字を愛情の「愛」に変えて「愛(あい)さつ運動」としている。

地域内に愛さつ運動の幟旗を掲げ、運動の強調期間を春、秋の年2回設けている。春は、街頭指導。各学校PTAと地域の人が地域内に立ち、児童・生徒の登校時にあいさつを交わしている。町内会、老人クラブ、交通安全指導員など総勢 250 名が参加し、地域全体で取り組んでいる。

秋は、街頭指導とともに各学校の児童・生徒にあいさつの標語募集を行う。優秀作品はコミュニティセンターに展示して、地域の方から見てもらう。最初ためらいがちだった子どもたちも、今では大きい声であいさつし、地域の人とのコミュニケーションも取れるようになった。

春・秋だけでなく、いつでもどこでも地域の住民も積極的にあいさつするようになった。子どもと大人の間だけではなく、大人同士でも、子どものお手本となるような関係づくりをしていかなければと感じている。

課題として、最近、不審者による事件が報道されるたびに、いつでもどこでも笑顔であいさつすることの指導と、知らない人を警戒することの見極めが非常に難しいと考える。地域でこの課題について話し合い、事件が起きないようにしていかなければいけないと思っている。

教育委員

日々のあいさつ、笑顔で交換することは大切と思う。地域の方々ともあいさつすることで、地域の方なのだと子どもたちも確認することができる。そういった意味では、確かに不審者の問題というのは相反するものであったりするが、地域の方と顔見知りになることは大きなことだと思っている。あいさつの「あい」は愛情の「愛」というのは素敵だと思う。

自治協委員

西部コミュニティ協議会エリアの学校でも、中学生が小学校へ出掛けて行ってあいさつを呼び掛けている。

地域と子どものかかわりとして、あいさつ運動、交通安全、見守り、放課後ふれあいサークル等、大人が子どもに何かしてあげることが主かなと思うが、紹介するのは、子どもたちも地域の中で役立つことをやっているということ。

毎年2月に西部コミュニティ協議会では、雪の火祭り、さいの神を新津第三小学校のグラウンドで大々的に行っている。

これまでは大人が火をつけて、子どもたちを喜ばせるという活動だけだったが、2、3年前からさいの神に地元の小・中学校の学校田から出た藁を使わせてもらっている。

それだけでなく、去年は年女・年男にあたる5年生に「とま編み」作業をお願いした。とま編みは、さいの神を巻く、藁を巻く、縄で縛って巻くもの。子どもたちは初体験だが、地域の大人が指導し、体育館に 50 数名が集まって藁を並べ作業をしてくれた。お陰で大きなさいの神をつくることができ、子どもたちも、自分たちが作り上げ、それを燃やしているという喜びを実感できたのではないかと思う。

大人が与えるだけではなくて、子どもも自分たちができることを見つけたことで、さらにこうした活動が増えていけば、地域の中での子どもたちの居場所、自信を持って地域とかかわりをもてるのではないかと思う。

教育委員

子どもたちが自主的に、自分たちのこととして捉えて物事に参画するというのが

大切だと感じた。さいの神の話があったが、どこの地域でも、その地域の文化というのがあり、その中心にお祭りがあると思う。それを受け継ぐ方がどこの地域でも少なくなっており、また途切れたり、お祭り自体が無くなっている地域もあると思うが、やはり小学校、中学校からそういういろいろな物事にかかわりを持ち、そして大人になって、次の世代に受け継いでくれるのではないかなと思うので、ぜひこのような良い活動を続けてほしいと思った。

教育委員会
事務局

小学校には多くの地域の方が来て学習活動のお手伝いをしていただいているが、ここ数年、中学生が地域に出て活動をしている。例えば、美化活動や、地域防災で何か役に立つことはないかとか、福祉施設を訪問してお年寄りの力になれることはないかとか。今の委員のお話で、小学校でも地域の役に立てることがあり、こういう芽が出てきたことは素晴らしいと思う。学校で子どもが支援を受ける一方通行ではなくて、学校から地域へ出て何かができないか。こういう観点を持つことは大事なことだと思うし、そういう場を地域から提案していただき、学校の要求とマッチできたことは素晴らしいと思う。

これからは、地域と学校の協働活動が大変重んじられていく時代になるので、さらにこういう取り組みが進み、子どもたちも地域づくりの役に立っているのだという有用感がもてる活動がますます増えていくことを期待している。

自治協委員

教育長から教育委員会の施策について聞いたが、私は、受けた子どもたちがどのように感じているのか、その辺の声も聞きたかった。

山の手コミュニティ協議会では、郷土愛を育む事業、交流事業ということだが、里山に一番近い矢代田駅を中心に「花いっぱい運動」を行っている。

地域の玄関口となっている矢代田駅に花をいっぱい飾ろうと、地域、花の会の協力で、小須戸中学校、矢代田小学校、矢代田保育園の子どもたちで駅東西にプランター、国道403号線にも花をいっぱい飾る。

この取り組みでは、上級生が下級生に教えるという喜びや子どもと地域との交流も図られている。そして、やはり子どもを褒めることは大事。やらされているのではなく、自分たち自らがやっているという自覚を子ども同士、地域の大人との交流でもってもらいたいと思う。

この美化活動は、地元を愛する心を先輩から後輩に受け継いでいくような取り組みになっており、地域のいろいろな課題解決に生きるのではないかと思う。

自治協委員

満日小学校が来年なくなるということで、その後の跡地はどうなるのか地域の人が非常に興味を持っているが、一向に何も言ってこない、どうなるのか。

また、統合後のスクールバスのバス停や道路の議論が全然前へ進んでいないようだ。今、学校とか自分たちの地域の、表現は悪いけれど、自慢話は聞いたので、今度は真剣になって仕事をやってもらいたい。夏はいいが、冬困ることがたくさんあるので、バス停、通学路、来年併合する小学校のことを真剣に考えてもらいたい。これは昨日、今日言ったことではない。

教育委員会
事務局

満日小学校の跡地問題に関して、まずは地域の皆さまの満日小学校の統合に向けたご尽力、ご協力いただいたことに感謝申し上げたい。

教育委員会 事務局	<p>地域の皆さまの気持ちをしっかり受け、跡地に関しては、まずは地域の方々の意見をしっかりお聞きし検討していきたいと考えており、通学路に関しても、今、安心安全部会というところでいろいろと案を出しているということで、きちんと児童・生徒の安全を第一に考え対応していきたいと考えている。</p> <p>スクールバスの運行については、PTAから、経路、乗降場所は子どもの安全が第一だということでアンケートを取っていただき、安心安全部会に出していただいた。それに基づき、部会できめ細かに経路と乗降場所、もし通学路に危険箇所があれば、いかにして安全を図ればいいのかということは今真剣に検討しており、ご理解をお願いしたい。</p>
自治協委員	<p>少子高齢化が進んでいるが、小須戸コミュニティ協議会では、今年9月と11月、初めてだが地域の茶の間2か所に小学校6年生の訪問を計画している。</p> <p>高齢者と子どもたちの交流で、小学校がリーダー役になり、ある程度お任せしながらやってみたいなど。このように子どもたちが高齢者といろいろ話すことで、いろいろな知恵も出てくることをコミ協としても楽しみにしている。</p>
教育委員会 事務局	<p>もう1つ、いろいろテレビにも出ているが、やはりいじめ問題が心配。いじめ問題は忘れたころに出てきて、学校の方でアンケートを取りましよう、それから進める。その間にも子どもの尊い命が亡くなっている。これをもっと教育委員会で真剣に考えて、子どもたちの命を大事にしてもらいたいと思う。</p>
自治協委員	<p>いじめの件については、一生懸命やっているところだが、なかなか難しい状況が多々見られる。他県においては、本当につらい状況がたくさんある。昨年度大きく見直し、学校で今までアンケートだけの調査をしていたが、手遅れになることがあるということで、今は学校で先生が見る、子どもも見る、周りの保護者の方からの話を聞く。何か少しでもサインがあれば、すぐに学校全体で取り組む体制になっている。学校だけで対応できない問題については、教育委員会にも今は事細かに報告が来るようになっており、大きな問題になる前に早急に動ける状況にある。そういう情報があれば、いつでも教育委員会に連絡いただきたい。</p>
自治協委員	<p>いい返答だったと思うが、いじめる子はいじめられる子の気持ちは分からないもの。だから、いじめられる子の意見を聞いて、何でお前はいじめられる、どうしてだと聞けばいいのではないか。絵に描いた餅ばかり言っても前には進まない。アンケートを取っても、みんないいことしか言わない。もっと真剣に考えてほしい。いじめる子といじめられる子それぞれ話を聞いてみれば分かること。中に入っていないと、いじめなんかなくなる、永遠になくなる。だから、もう少しいい案を。アンケートで飯なんか食えないよ、きちんとやらないと。</p> <p>地域と学校の連携の説明のところでは、とても頑張ってやっていることが分かったが、今の子どもたちの6人に1人が貧困レベルと言われており、その中で、給食費や修学旅行の金が払えないシングルマザーの人たちも大勢おり、なかなか大変だという声も聞かれる。</p> <p>そこで、新潟市や秋葉区では、貧困率はどのくらいなのか掴んでいるか。こういう状況に対して、私たち有志では、部活の柔道着とか、高い物について周り</p>

から募ってバザーを開こうとか考えている。また、今、私は高齢者の給食会を2つ持っているが、たいへん喜ばれているので、例えば仕事の帰りが遅いシングルマザーの家庭の子どもたちにも1か月に1回でも2回でも夜ご飯を一緒に作ったり、食べたりできないかということを考えている。教育委員会として対応策を考えているのかどうか聞きたい。

教育委員会
事務局
自治協委員

ただいまのご質問で、貧困率というのは特にこちらで把握していない。ただ、非常にありがたいご意見もあったので、あとでまた詳しくお聞かせ願えればと思う。

先ほどのいじめ問題の回答で、いじめがあった場合に対して情報はすぐに教育委員会の方に行くという話だが、いじめというのは見えないところで行われるもの、例えばネットとか、親も、先生も知らない。

そうなる、いじめの情報収集をどこでやるのか。こういうことがありましたということで事細かく報告しなさいということだが、どのようになっているのか。

教育委員会
事務局

先ほどもお話したが、普段の生活の中で、先生は子どもたちのことをよく見るようにしている。いじめる、いじめられるという様子が表には出てこないということだが、アンケートだけではなくて、一人ひとりの子どもたちとじっくり話をする時間を設けている。中学生は、毎日生活ノートを書いており、悩んでいる子どもは、そこに自分の気持ちを書く。それは先生と子どもの1対1の交換日記のようなもので、子どもからのサインを読み取ることができるようになっている。

それだけで見取れない場合は保護者から連絡をいただいたり、周りの子どもたちがSNS関係から、先生に教えてくれたり、今はいろいろなところから情報も入ってくるようになっており、きめ細かに情報収集できるようにしている。

自治協委員

ハードからソフトな話までいろいろ出ているが、私もハードとソフトの2点でお話したい。

まずはソフトの話。新潟薬科大学は地域の大学、教育機関として、これまでは高校生がオープンキャンパスの一環のように、何となく先生に言われて大学に行く、みたいなのところもあった。しかし、最近では中学生も自ら進んで、例えば実験講座に参加したり、大学生を見て、その大学生のようになりたいと自分から言って、その中学生が入学生になったというケースも見受けられ、大学としても貢献できてきたのかなと感じており、いろいろ試行錯誤をしている。

10月の大学の文化祭では、健康に関するいろいろなプログラムを用意して、地域の子どもや家族の方などに大学生の活動を見ていただき、地域の活性化につながればと思っている。

2点目だが、施策で、小学校、中学校でやっていることは、確かに素晴らしい取り組みであり、子どもたちも楽しくやっていると思うが、実際に、こういうことをやった生徒たちが、地域を誇りに思うとか、事業を通じて思ってくれていることが実感できる評価がどのようにされているのかよく分からない。こういうことをやると、こんな人にきつになれるだろうか、すこやかなとか豊かなとか、ちょっと抽象的な表現をされている。あるいは、ここで育った子どもたちが将来ここへ戻って来て、また次の世代の人たちを育てていきたいと思ってくれるということ、どういうふうに関っていくのか分

教育委員会 事務局	<p>からない。</p> <p>委員もよくご存じだと思うが、一番図りにくい評価の部分だと思っている。ただ、はっきり言えることは、子どもたちは、地域の方の一生懸命の姿に純粋に感動する。それは何から見るかと言うと、最後に振り返りの場面で感想を書いてもらう。この感想を見れば明らかに地域の方の愛情や熱意に子どもたちは純粋に感動する。どちらかという一生懸命やっている、その人の姿にあこがれる。自分はいあいう人になってみたいとか、純粋にそう思って感想を書いてくれる。結果、新潟に帰ってくるかどうかは、10年後、20年後で、それは分からないが、少なくとも感動していることは間違いないと思っている。</p>
教育委員会 事務局	<p>地域と学校の連携を担当しているが、地域のボランティアの方、それからコーディネーターに対してアンケート調査を行っているが、子どもたちへのアンケート調査は行っていない。ただ、事業ごとにアンケート、振り返りをする場面があり、例えば、ジュニアレスキューとして地域の防災活動に参加している子どもたちは、地域の方とふれあう中で、僕たちだってこんなことをすれば地域の役に立てるのだという感想がたくさん出てきている。</p>
自治協委員	<p>自分がその中で活躍できる有用感というものを味わってきているというのは、そこで分かっており、地域の特色を調べる、特産物を調べる、その中で農家の方がプライドを持って仕事をされていることに気付き、地域を誇れる、あこがれになっていくのではないかと思う。</p> <p>提言になるかもしれないが、内容的に見ると課題が何もない。課題がなく、すべてビジョンが出てきている。いいことが書いてあるが、では秋葉区の小学校、中学校の課題は何か。そういうことがあって初めて対策ができる、それに対して地域と連携して対策ができるかと思うが、その内容が何もない。絵に描いた餅のような状況。それについてお答え願いたい。</p>
教育委員会 事務局	<p>大きな問題で、すぐにはお答えできないが、やはり子どもにとっては日頃の安全が第一だと思っている。安全が第一で、本当に自分のやりたいことを将来目指していけるような子どもを育てる教育でなければいけないと思う。秋葉区だけではなく、どこの区でも同じだと思う。</p>
自治協委員	<p>課題ではなく、問題点がよく分からないということ。この内容からは、各地域の問題点、小学校の問題点、それから中学校の問題点はということが秋葉区の中にあるのかということがちょっと分からなかったということ。もし掘めているのであれば教えてもらいたい。</p>
教育委員会 事務局	<p>平成 26 年度以降、中学校区教育ミーティングでそれぞれ中学校区を回り、いろいろな取り組みや課題、問題点、意見などを地域の方、学校関係者、保護者の方からお聞きする中で把握している。</p>
自治協委員	<p>中学校区教育ミーティングも教育委員が参加し順次行っているが、毎回同じようなテーマである。話を聞いて、どう総括されて、そのためにはどうするのかという話が出てこない。何が問題点なのか分からない。時代が変わり、いじめや貧困が増えたり、いろいろな情勢があると思うが、そのためにどうするのかという話がまったくない。</p>

教育委員

その辺はどうなのか。3年間の総括されたものが出てくるのか、そういう反省の上に立って、新しい教育ビジョンが示されるのか、どうなのか。

教育委員会でビジョンを考えるが、私の個人的な考え、認識としては、そもそも今の地域、市全体を含め、人と人とのつながりが薄れてきており、そこがまず問題である。そういう地域のコミュニティというものを再生していかなければと。そういう中で、一つの方策として子ども教育というものを一つのつながりとして、地域の連携をもう一回再生していこうというのが、この地域と学校連携事業の目的の一つだと私は思っている。それは別に教育だけではなくて、皆さまそれぞれの地域の活動があると思うが、いろいろなものの取り組みの中に、この一つもあると思う。

3年間いろいろと回り感じることは、すごくいい形ができあがってきているということ。一つ事例を挙げると、白根の大通団地。新興住宅地で町内会自体も運営がうまくいかなかったが、この10年間、パートナーシップ事業でコーディネーターが地域の大人たちをつなげ、新しい白根の地域だけに、凧づくりもできる人がいなかったが今はできるようになった。小学校の子どもたちと大凧づくりができるようになった。そして、町内会の活動もできるようになってきたという話を先般聞いてきた。そういうことが一つ一つの積み重ねによって生まれてきていると思う。

これをどう総括するのか、何か冊子にまとめるかどうかは分からないが、以前よりもそれぞれの地域でつながったものが高まっているということは、皆さんも感じていると思う。

議 事

5 区自治協議会会長挨拶

長時間にわたり大変お疲れさまでした。委員が表現するいわゆる自慢話というのも大事、それから、真剣になって考えなければいけないことももちろん大事。このようにミーティングということで、集まって時間を使うということ、これも非常に大事。今日配られた施策を考えることも大事。すべてが大切なことだと思っている。皆さまの取り組みに関しても、何一つ無駄なことはないと思っているが、ふと立ち止まって、これは大人の自己満足になっていないか、そこを私たちは肝に銘じなければいけないのかなと感じた。

子どもたち自身に考えさせる、子どもたち自身に失敗させる、事例も含め話があったが、そういった動きがあるということが非常に大事なのだろう。そして検証という部分、それも検証しにくい内容なのかもしれないが、何かやはり形としていく時代になってきているのかなと私も感じた。

私自身、学校評議員でもあり、また、地域の子どもたちとかかわらせていただく機会をたくさんいただいているが、例えばOBの方、それから子育て現役の方、予備軍、さらには学生、そして主役の子どもたちをつないでいく、連携という言葉が出てきているが、その他、コーディネートをコンダクター、マッチングをする人というのがこれからポイントになる。新潟市の場合、地域教育コーディネーターを全国に先駆けて全校に設置ということで、そのところをもう少しブラッシュアップしていくことが、これから必要で大事になってくると捉えている。そして、どう子どもたちとかかわり、子どもたちの声を聞いていくのか、そこを私たち大人が考える必要があると感じ

た。

1点だけ良いお話をご紹介したい。熊本地震が起きたとき、新津第五中学校の生徒の皆さんが、自分たちで考えて、先生は何も言わなかったそうだが、まちに出て行って、募金活動をしたというお話を伺ったとき、私はすごく嬉しかった。生徒たち自ら、自分たちの地域のことはもちろん、広く日本という視野で、自分たちができることは何かを考えて、しかも実行に移してくれたということは、秋葉区にとって誇らしいことだなと感じた。頭に「地域が輝ければ、学校も」という話もあったが、学校が輝けば地域も輝くと思っている。きらめく秋葉区のため、教育に関して、また皆さんで侃々諤々、いいことも、そして痛いことも話し合いをしていく必要があると思っているので、今日は非常に貴重な時間をいただき、感謝したい。

6 閉会